

山本圭吾：ワークショップⅡ「沖縄の海藻と微細藻の観察採集会」に参加して

本ワークショップは、2009年3月28日から30日にかけて、琉球大学熱帯生物圏研究センター瀬底実験所で行われました。内容は、沖縄に生息する海藻と微細藻類についての講義と採集で、採集した藻類は実験所で同定作業を行い、それぞれが標本等にして持ち帰るというものでした。

初日の28日は学会会場の千原キャンパスから瀬底実験所までの移動日でしたが、夜には懇親会が開催され、学会とはまた違った雰囲気に参加者と交流することができました。瀬底島には自然が多く、実験所の技官である中野義勝氏による諸注意の中には「ハブがいるから夜に駐車場まで行く方ご注意ください」との内容もあり、さすがは沖縄と少し驚きました。

翌29日の午前中には、中野氏によって実験所の施設案内をしていただきました。特に印象深かったのは屋外水槽で、無造作に(?)サンゴが飼育されている様子は、普通の業務では考えられない光景でした。講義室に戻った後は、大場英雄氏(東京海洋大)、新井章吾氏(海藻研究所)、神谷充伸氏(福井県大)、加藤重記氏(琉球大)、河地正伸氏(国立環境研)から、沖縄の植物の生態や、海藻の分布場所などについて講義していただきました。参加者の中にはスライドに出てくる美しいサンゴや海藻類の写真を見て、採集会が待ちきれないといった様子の方もおられたようです。

午後からは実験所から10kmほど北にある備瀬崎まで移動し、いよいよ採集会が始まりました。採集は、大きく分けてリーフの浅瀬を巡る陸組と、ウェットスーツを着用した潜水組に分かれていましたが、私を含めた陸組の多くは、午前の講義でコケモドキが生育すると紹介されたノッチ(波打ち際のサンゴ礁が波や生物活動で徐々にえぐられていく地形)に吸い込まれていき、海を背にして採集を開始しました。備瀬崎には観光客らしき方々もおられました。青い海に背を向けて岩陰で海藻

をあさっていたのは我々だけだったように思います。実験所に戻ってからは、それぞれが同定作業や写真撮影、標本作りに勤めました。前回の館山でのワークショップⅡと比べて、時間的に余裕があったものの、私にとってほとんど見たこともない海藻ばかりであったことから、同定・写真撮影・標本作製といった一連の作業にかなり時間がかかりました。多くの先生方にご教授していただかなければ、とても名前や写真を記録する事はできなかったと思います。本当にありがとうございました。夜にはバーベキューが用意されており、あいにくの空模様のために途中から室内に移動したものの、最後まで楽しい時間を過ごすことができました。

本ワークショップでは、終始、沖縄の自然を見て触って感じることができ、有意義な時間を過ごすことができました。参加者同士が交流する機会が多かったことも非常に良かったと思います。しかし、中にはワークショップに参加するために入会された方も数名おられ、そのような方には同定や標本作製のための時間が十分でなかったようにも感じました。本ワークショップは学会員のための企画として位置づけられているものではありますが、今後も学生会員や海藻の同定作業に不慣れな方の参加があると思いますので、TAを配備した初心者グループを設けるなどの配慮があると、よりよい採集会になるのではと感じました。

最後になりましたが、企画・準備・運営をしていただいた国立環境研究所の河地正伸氏、鹿児島大の寺田竜太氏、瀬底実験所の中野氏を始めとしたスタッフの皆様、本ワークショップの講師をしていただいた先生方と、海藻類の同定に関して御教授していただいた先生方に心から感謝申し上げます。(福井県大, 現所属: 京都府農林水産技術センター海洋センター)



エクスカッション参加者(本部町備瀬崎にて)



夜遅くまで続いた同定作業